

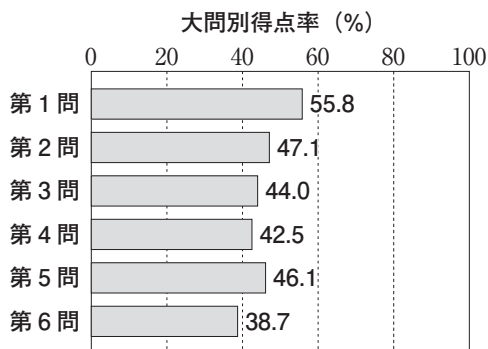
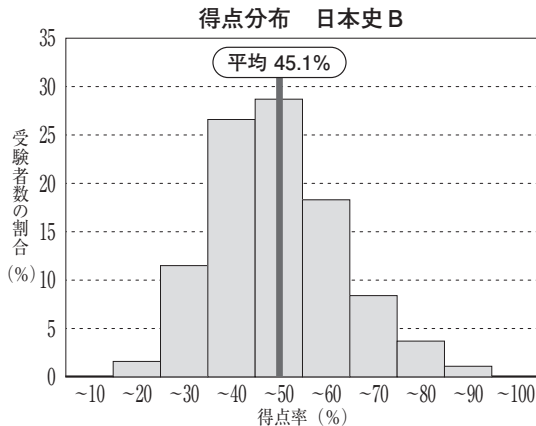
# 日本史B

## 「夢」への挑戦がはじまった！ 真正面から突破せよ！

### I. 全体講評

いよいよ2017年度の東進のセンター試験本番レベル模試がスタートした。「夢」へ向かって勇猛果敢に前進していこう。

第1回2月センター試験本番レベル模試の平均点は45.1点と5割には満たなかったが、未習箇所が多いことが考えられる時期にしては健闘したといえるだろう。第1問の広範囲に及んだ時代のテーマ史の得点率は55.8%と高水準であった。3割～4割の得点率に終わった第2問から第6問までは、概ね受験者の解答が分散するケースが多く、知識が定着していない状況がうかがえる結果となった。今後の課題は未習箇所の学習を計画的に進捗させ得点力を向上させることだ。次回のセンター試験本番レベル模試の実施は4月である。まずはそこで今回以上



の結果を残すことを目標に、努力を積み重ねていこう。

### II. 大問別分析

#### 第1問 貿易の歴史に関する会話

テーマ史は俯瞰的視野をもちながら「時代」と「時代」を比較する習慣をつけよう！

対外関係史に目を向けてもらう意図から、貿易に関して、会話の形式で出題した。例年、第1問では全時代を通じたテーマ史が出題される。俯瞰的視野から「時代」と「時代」の相違点を考察する習慣をつけていこう。

第1問の得点率は55.8%と5割を超えた数値から健闘したと言えるだろう。問4・問5の正答率はそれぞれ70.2%、73.6%と7割を超える好結果であった。その一方、問6の幕末から戦後に関する貿易をテーマにした問題は13.5%と大きく崩れ、全体的に解答が分散する傾向がみられた。未習箇所は早めに学習にあたることで得点源とすることが大切だ。

#### 第2問 古代の社会・文化

文化史は通史と関連付けることでインパクトをつける学習を心がけよう！

古代の土地制度と仮名文字をテーマとして取り上げ、社会・文化を中心に出題した。単純な暗記作業に陥りがちな文化史は、政治・外交などの主要テーマと関連付けることで理解を重視する姿勢であってほしい。

第2問の得点率は47.1%と4割台にとどまる結果であった。正答率の最高は問6の85.5%、最低が問1の17.2%と、出来・不出来の差がはっきり出たといえよう。また、表の数値を分析する問3は64.0%と善戦したようだ。社会経済史に関しては表やグラフが提示され「数値」を判断させる問題が多い。「注」なども含め冷静な目で分析して正答を導き出そう。

**第3問 中世の政治・社会経済**

**図説資料集を使用することで史実を様々な角度から分析する力を養っていこう！**

中世の政治・社会経済を取り上げ、為政者と政策・出来事が正確に結び付けられているかなど、史実に対する基本的な理解ができていないか試す問題とした。学習の際には図説資料集にある表や系図などを確認することで違った角度から史実を眺めてみよう。

第3問の得点率は44.0%と第2問に続いて4割台にとどまった。鎌倉時代の社会経済史を主題とした問3は65.2%の正答率を確保できていたが、比較的得点しやすい政治史を主題とした問2・問6はそれぞれ37.9%、47.7%と低調な結果に終わった。基本事項と言える問題であるので、解答解説をしっかり熟読して理解を深めていこう。

**第4問 近世の社会・文化**

**視覚資料は必ず出題されることを念頭におき、しっかりとした対策を講じよう！**

江戸時代の政治・文化史を中心に、視覚資料も含めた総合的理解を試す問題とした。絵画・彫刻などはその作品を必ず「目」で確認する必要がある。教科書に掲載されている絵画・彫刻は注意深く確認していこう。

第4問の得点率は42.5%と辛うじて4割台は確保した。問3の寛永文化期の絵画に関する問題は40.0%と誤答である③の49.5%を下回った。「狩野永徳」と「俵屋宗達」で選択を迷った受験者が多く見受けられた。作者と作品を組み合わせる問題は頻出なだけに、同じミスは繰り返さないようにしよう。

**第5問 明治期の教育**

**常に社会に関心をもつことで時事的な問題にも準備をしておこう！**

明治期の教育をテーマとして出題した。昨今、教育改革をめぐる議論がさかんになされていることから、時事的な話題は出題されやすい。社会的関心をもつことで時事的な問題にも準備をしておこう。

第5問の得点率は46.1%と第2問と同水準であった。問2のようなグラフが使用された問題の場合、史実の時期とグラフの数値を合致させるケースが多いが、57.0%の正答率から比較的順応できていたと

いえよう。また、明治憲法の内容を問題とした問4も64.8%と好結果であった。「できる」という感覚は反復学習によってでしか得られないといっていだろう。引き続き努力を継続していこう。

**第6問 大正・昭和期の軍事と戦争**

**多くの時間を費やす近現代史は早めに対策を講じていこう！**

大正・昭和期の軍事と戦争をテーマに、政治・外交・経済・文化の各分野をバランスよく出題した。複雑な史実が絡み合う近現代史はその理解にも多くの時間を費やすだけに計画的に学習を遂行していこう。

第6問の得点率は38.7%と大問6題中、最低の水準に沈んだ。設問8題中、正答率が5割を超えたのは問7(51.2%)のみだったことから全体的に苦戦した様子が伝わってきた。大正期の自然科学分野をテーマとした問2は解答①(36.4%)が、正答②(26.8%)の選択率を上回る逆転現象となった。正しい史実の把握に努めることに集中していこう。

**Ⅲ. 学習アドバイス****◆ 「出題傾向」をつかむ**

東進のセンター試験本番レベル模試・日本史Bは実際のセンター試験日本史Bと出題傾向、難易度を完全に合致させた内容になっている。今後も毎回受験することで、本番に向けシミュレーションを重ねていこう。

**◆ 「解答解説」を熟読しよう**

模試受験後に配布される解答解説を熟読することにより学習効果を高めていこう。欠如していた知識は何だったのかをはっきり自覚することで、対策も講じやすくなる。「解答解説」は得点力向上の一助となる最高のアイテムであることを指摘したい。

一学問とは、

人間はいかに生きていくべきかを

学ぶものである—

吉田松陰